

共催 兵庫県がん診療連携協議会・(公社) 兵庫県臨床検査技師会

「検査セミナー」

テーマ：“多発性骨髄腫” ～見えない腫瘍を求めて～

日時 令和3年12月4日(土) 14:00～16:00

場所 兵庫県民会館 パルテホール (神戸市中央区下山手通4-16-13)

「多発性骨髄腫」は無症状のことがあり、健診や人間ドックの血液検査で異常が発見されることは珍しくありません。また腰痛などで外科系診療科から見つかることもあります。その後の精密検査では貧血や異常免疫グロブリン(Mタンパク)などの測定が行われ、骨髄検査で腫瘍本体が見つかるという、臨床検査を駆使しないと見えない腫瘍の一つです。最近ではFISHやフローサイトメトリが予後予測や治療薬決定に活用され、ますます臨床検査の重要性が増しています。また、新しい治療薬の登場により多様な薬剤選択が可能となり、これらの治療を開始するタイミングとなるCRAB(高Ca血症、腎機能障害、貧血、骨病変)の判定においても臨床検査は深く関わっています。さらに通常の臨床検査では見ることはできなかったMRDを測定し、治療方針を決めるようになりつつあります。そこで、今回のセミナーでは「多発性骨髄腫」の疫学や診断から最新の治療までをご講演頂きます。

なお今回も、会場での講演と同時にZOOMを用いたオンライン配信を予定しています。

【プログラム】

13:30～ 受付開始

14:00～ 開会挨拶 富永 正寛

(兵庫県がん診療連携協議会議長、兵庫県立がんセンター院長)

14:10～ 座長：村山 徹 (兵庫県立がんセンター 検査部長)

講演1. 多発性骨髄腫について 過去・現在・未来

演者：北尾 章人 (神戸大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 特定助教)

14:50～ 座長：三村 喜彦 (兵庫県立淡路医療センター 検査技師長)

講演2. 多発性骨髄腫のFISH検査

演者：梶本 和義 (兵庫県立がんセンター 病理診断科部長)

講演3. 多発性骨髄腫のFCM検査の実際 ～マルチカラーの威力とピットフォール～

演者：米澤 賢二 (兵庫県立がんセンター 検査部)

16:00 閉会挨拶 真田 浩一 (公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 会長)

〈世話役〉

兵庫県立がんセンター 検査技師長 幸福 淳子
(公社) 兵庫県臨床検査技師会 会長 真田 浩一